



新地町 震災と復興

50年後の新地人へ

[東日本大震災の記録]

福島県 新地町

震災と復興

50年後の新地人へ

新地町「東日本大震災の記録」

CONTENTS

第1章 新地町概要 05

第2章 新地町震災の記録 11

平成23年3月11日	14
平成23年3月12日－17日	26
平成23年3月18日－31日	44
平成23年4月－12月	54
平成24年1月－12月	79
平成25年1月－12月	98
平成26年1月－3月	104

第3章 東日本大震災時の新地町 107

第4章 データで見る震災 131

第5章 復興へ 新地町復興事業 153

新地町 防災の心得 193

町章

Town Symbol



町民憲章

(昭和53年7月1日制定)

- 一、ふるさとの海と山を愛し、美しい町をつくります。
- 一、互いに助け合い、心の豊かな町をつくります。
- 一、健康でしごとにはげみ、希望に満ちた町をつくります。
- 一、としよりを敬いこどもを愛し、明るい町をつくります。
- 一、郷土の歴史を大事にし教養を高め、文化の町をつくります。



発行にあたって



東日本大震災により、被災された皆様にお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになられた方々に対し、謹んで哀悼の誠を捧げます。

平成二十三年三月十一日午後二時四十六分の大地震、その後一時間もたずに襲来した大津波、あの時から私たちの生活は一変しました。白い砂浜、青い海、そして緑の田畑が黒い海に飲み込まれ、町の五分の一にあたる約九百ヘクタールには、津波によってガレキと化した家々が散乱する光景が広がり、同時に多くの尊い命を奪いました。

震災から三年が過ぎました。町では、全国より多くの支援を受けながら、町民の安全確保を優先に、被災された多くの方々の日も早い生活再建に取り組み、着実にその歩を進めてきました。防災集団移転促進事業による住宅団地の造成、災害町営住宅などの整備も進んでおり、仮設ではない普通の生活が戻りつつあります。また、JR常磐線西側の被災農地については復旧もほぼ終わり、以前のように作付けが出来るようになりました。

しかし、震災によって犠牲になられた百十八名の命が戻ってくることはありません。本記録誌は、この震災の教訓を風化させることなく後世に伝えるとともに、復興の様子など未来への希望を伝えるため発行いたしました。本記録誌の発行にあたりご協力いただきました関係各位に心から御礼申し上げます。結びに、東日本大震災以降、被災者の救助・捜索活動にご尽力いただきました関係機関・団体の皆様、また、励ましのメッセージ、救援物資、義援金、ボランティア活動などのご支援、ご協力をいただきました多くの皆様に、改めて厚く御礼申し上げます。町民、町が一丸となり、「チームしんち」で震災からの復興を成し遂げますことを固くお誓い申し上げます、発行にあたってのごあいさつといたします。

平成二十六年 三月

新地町長 加藤憲郎



信頼の輪が広がる 暮らしきらめく しんち

海・里・山

多様な自然を有するまち

「新地町の地勢」

■位置・人口

新地町は、福島県の太平洋側最北部に位置し、東西南北とも約7km、周囲24kmのほぼ四辺形を成し、総面積は46・35km²、中心部は海拔平均10〜30mとなっています。交通は、JR常磐線が走り、東京から水戸市・いわき市を経て岩沼市・仙台市に至る国道6号が本町を縦断しています。また、相馬市を経て国道115号で県都福島市へ、国道113号で宮城、山形方面を経て新潟市へ至ります。相馬市へ10分、県都福島市までは80分、東北の中枢都市仙台市へは60分の距離にあります。

■自然

海、里、山、と多様な自然環境を有しており、豊富な産物にも恵まれています。海洋性気候により、東北地方の中では比較的温暖な地域であり、降雪も少なく、春夏秋冬を通じて快適な居住環境にあります。

阿武隈山地東縁の前山を形成する地藏森、五社壇、鹿狼山、大沢峠、そして、これらを分水嶺として東に流れる立田川、砂子田川、三滝川による扇状地及び沖積平野が発達した地勢条件にあります。鹿狼山には、片倉沢の原生林[※]としても知られる自然度の高い樹林があります。

■町の産業

農業は、ニラ、イチジクなどが地

鹿狼山



釣師浜漁港



域の特産品として高い評価を得ています。漁業は、コウナゴ、カレイ等を中心に一定の水揚げ量を誇ります。工業は、相馬中核工業団地に相馬共同火力発電(株)新地発電所が進出し、首都圏及び東北地方にエネルギーを供給しています。発電所東に面した海側には、重要港湾相馬港が整備され、国内外からの貨物を取り扱っています。

■本町のあゆみ

四季を通じて住みよい気候に恵まれた新地町は、旧石器時代の遺跡をはじめ、縄文時代の「新地貝塚」、[※]「三貫貝塚」などがあり、原始時代から多くの人々の歩みが刻まれています。

昭和29年、福田・新地・駒ヶ嶺の3ヵ村が合併し新地村が誕生、昭和46年に町制を施行しました。

全国的に進みつつある高速交通体系へつながる常磐自動車道には、新地インターチェンジの設置が計画されており、交流を広げる大きな契機となることが期待されます。

常磐自動車道



相馬港



中核工業団地



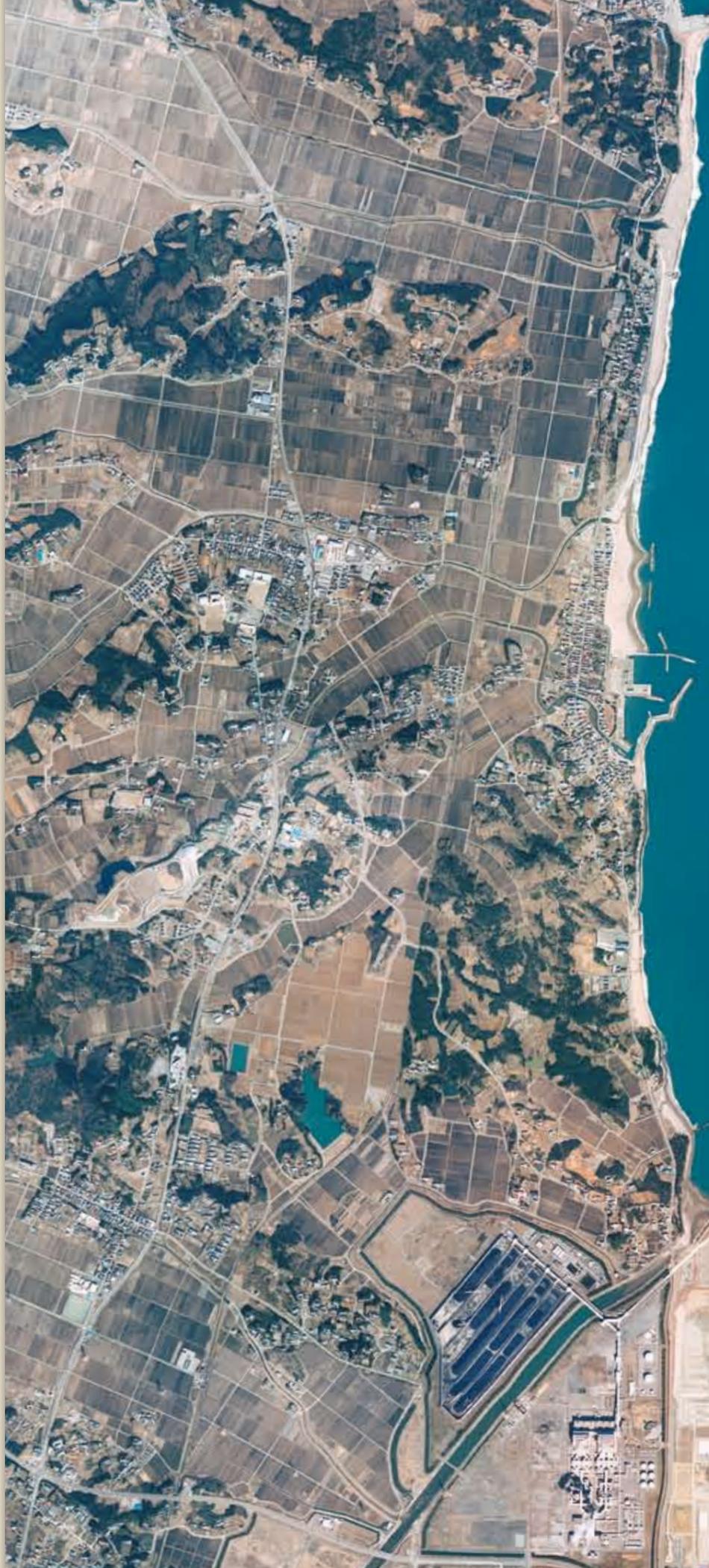
砂浜海岸



空から見る新地町

被災前

写真提供：MSC
(2004年撮影)



被災後

写真提供：国土地理院
(2013年撮影)



